



# 文化財ニュース

No. 64

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター

文化財調査研究センター ■住所 〒675-0101 加古川市平岡町新在家1224-7 (中央図書館2階、JR東加古川駅から北へ徒歩約10分) ■電話 (079)423-4088 ■FAX (079)423-8975 ■事務取扱時間 平日9:15~18:00 (土・日曜、祝休日、12月29日から翌年1月3日まで、毎月第2月曜は休所)  
 ■ホームページ (加古川市) <https://www.city.kakogawa.lg.jp> (文化財調査研究センター直結QRコード)



令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、県指定文化財本岡家住宅こどもの日特別公開、秋の文化財講座など多くの行事が中止となりました。43年間町内会などを經由して全戸配布してきたこの文化財ニュースも、今回は、教育機関や公共施設を通じて配布することになりました。

さて、この地域(旧加古郡・旧印南郡)の神社の行事に、国恩祭という大祭があります。22の神社が11年に1度持ちまわりで行うこの祭は、江戸時代の天保4(1833)年の大飢きんで人々の心が荒れることを憂いて「祓講」という神社組織を作って臨時の大祭をしたことに始まります。昔の人々も、さまざまな禍に対して前向きな気持ちを確認し、禍の経験を忘れずに次の世代に伝える工夫をしてきました。

今年の国恩祭は、泊神社(加古川町)と稲根神社(神野町)で規模を縮小して5月に行われる予定です。



泊神社は、江戸時代のはじめ、剣豪として有名な宮本武蔵の養子として家をついだ宮本伊織が社殿を修築して、その時の多くの文化財が伝わっています。

泊神社棟札

## 新しい指定文化財

令和3年3月11日の定例教育委員会で、文化財審議委員会の答申を受けた泊神社所蔵の「泊神社棟札2枚」が、新しく市指定文化財に加わりました。これにより、市内の指定・登録文化財は、国指定23件(うち国宝2件)39点、県指定33件55点、市指定69件1,425点、国登録9か所37件になりました。

これらの指定文化財をはじめ、市内にはたくさんの文化財があります。現在に生きる私たちは、先人たちが守り伝えてきた地域の文化財を、心豊かな生活のために活用していくとともに、次世代に継承していく役割を担っています。

### 新指定

#### 泊神社棟札

2枚 市指定 歴史資料

各 長170cm、肩幅50cm、下幅46cm、板厚2cm  
木製 江戸時代/承応2(1653)年5月

泊神社 加古川町木村658番地

この2枚の大型の棟札は、江戸時代はじめの承応2(1653)年に豊前国小倉藩の筆頭家老であった宮本伊織が、故郷の泊神社の建物がたいへん傷んでいたので大修理をした時のもので、現在の本殿である本社と、現在の神楽殿である舞堂のものです。なお、舞堂棟札は、損傷が少なく文字が新しく見えることから、本社棟札に比べ少し新しい可能性があります。

2つの棟札に記された内容はほぼ同じで、この記録から修理前の本社が文禄3(1594)年のものであったことや、修理当時の泊神社のようすを詳しく知ることができます。

特に興味深いものは、裏面の伊織による527文字の記録です。これによると、伊織が、泊神社とその末社である米田天神社の氏子である印南郡の米田村の田原

家出身で、宮本武蔵の養子となって宮本姓を名乗り当時の明石藩主小笠原家に仕えたことが詳しく記されています。その他、泊大明神が17か村の氏神であったことや、米田天神社とともに泊神社の社殿を修築した経緯などが記されています。

これらの棟札には、戦国時代が終わった江戸時代はじめ頃の泊神社のようす、この地域の出身である宮本伊織に関係する田原家や宮本武蔵らの戦国時代末期のようす、そして、伊織の故郷、父母、義父である宮本武蔵や主君への思いが記されています。当時のこの地域の社会や文化を、文字の記録によって知ることのできるたいへん貴重なものです。

## 調査と報告

### 埋蔵文化財発掘調査

教育委員会では、埋蔵文化財保護のために調査をしています。令和2年1月から12月までに、遺跡内での住宅建設などの121件の届出があり、加古川町の美乃利遺跡と広沢山遺跡（神納塚古墳）の2か所で記録保存のための本発掘調査を行いました。このほか、遺跡の破壊のおそれがある28件の開発事業などで埋蔵文化財の有無を調べる確認調査を、遺跡の可能性のある土地の開発事業で6件の試掘調査を行いました。

確認調査では、岸城跡（西神吉町）、尾上構居跡（尾上町）、粟津遺跡（加古川町）、砂部遺跡（東神吉町）、石弾城跡（加古川町）、美乃利遺跡（加古川町）の6遺跡で、試掘調査では、間形地区、西河原地区、中津地区（いずれも加古川町）の3か所で遺構などを確認しました。

確認調査の結果などをもとに、できるだけ遺跡が破壊されないよう関係者と協議します。そして、やむをえず遺跡を破壊してしまう場合は、記録保存のために本発掘調査し、発掘調査報告書を刊行し記録の保存と公開を行います。

埋蔵文化財の保護のため、一般に「遺跡」と呼ばれている「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事を行う場合、地中を掘る行為の60日前までに「発掘届」という届出をしなければならないことが文化財保護法で定められています。その届出に基づいて、埋蔵文化財を保護する必要があるれば、協議をすることになります。

工事と埋蔵文化財保護を円滑に進めるために、



神納塚古墳発掘調査全景



整備された駐車場（神納塚古墳跡）

土木工事などの計画がある場合は、早めに文化財調査研究センターに連絡ください。

### 美乃利遺跡発掘調査

美乃利遺跡は、加古川町美乃利から大野に広がる弥生時代から中世にかけての集落遺跡です。これまでの調査で、弥生時代の住居跡や水田跡、奈良時代以降の住居跡などが確認されています。

令和2年2月から6月まで、平成27（2015）年度に発掘調査した道路敷設箇所の延長部分を調査しました。その結果、弥生時代後期から終末期頃（約2000～1750年前）の大きな溝のほか、奈良時代（約1300年前）以降の掘立柱建物の柱を据えた穴（柱穴）など多数の遺構が確認されました。柱穴の中には、当時の木材がそのまま残っているものがありました。



柱が残った柱穴

また、平成27年度の調査場所から離れるにつれて遺構が少なくなっていることなどから、当時の集落全体の様子がわかってきました。出土した遺物は、弥生土器や土師器、須恵器の土器をはじめとして、弥生時代から中世にかけてのものでした。

### 神納塚古墳発掘調査

令和2年5月から8月まで、加古川町大野の日岡山公園再整備事業（駐車場整備工事）地内で、神納塚古墳を含む広沢山遺跡を発掘調査しました。これらの遺跡は、兵庫県を代表する古墳時代前期の古墳群である日岡山古墳群にある遺跡です。

神納塚古墳は、集落遺跡である広沢山遺跡の調査中に偶然発見した古墳で、第二次世界大戦の頃に墳丘や埋葬施設と周濠の東側半分が削られて失われたらしく、半ドーナツ形に周濠の西側部分のみが残っていました。

幅約5m、長さ約45mの周濠部分を調査した結果、深さ30cm程の周濠の中からたくさんの埴輪片が出土し

ました。大部分が円筒埴輪で、そのほかに家形埴輪が少量出土しました。これらの埴輪は、古墳の上に据えられていたものが、周濠内へ転落したものと考えられます。なお、周濠内に転落したような石が無かったため、この古墳の表面には葺石が施されていないことがわかります。

今回の調査は、日岡山古墳群で初めての本格的な発掘調査で、その結果、古墳の規模は、幅5mの周濠が巡る径27mの円墳で、年代は、埴輪の特徴などから古墳時代前期の終わり頃（約1600年前）、日岡山古墳群の最終段階に造られた古墳と考えられます。

なお、この古墳の周濠は駐車場の整備工事によって失われましたが、古墳が存在していたことを伝えるため、周濠が存在した場所と同じ範囲にカラー舗装をすることで古墳の場所や大きさを明示し、詳しい説明板を設置しています。

### その他の文化財調査

埋蔵文化財のほか、所有者や地域住民からの情報提供による民俗行事、民具・農具、石碑、石棺石仏に関係する4件の調査を行いました。

### 文化財関係印刷物刊行のお知らせ

令和2年1月から12月までに刊行した文化財関係印刷物は以下のとおりです。文化財調査研究センターをはじめ関係施設・機関で閲覧することができます。また、解説シート及び報告書などの印刷物をホームページで公開しています。

『加古川市文化財年報第3号平成29（2017）年度』（2020年、A4判54頁）	非売品
『栗津遺跡発掘調査報告書』（2020年、A4判64頁）加古川市文化財調査報告31	非売品
『上村池遺跡発掘調査報告書Ⅰ』（2020年、A4判172頁）加古川市文化財調査報告32	非売品
文化財解説シート（2021年、各A4判1枚両面刷）第21号『本岡家住宅』、第22号『築山の榎』、第23号『地徳寛墓地の石幢』、第24号『見土呂の宝篋印塔』	非売品（配布用、残部有）

### 文化財関係出版物の販売

教育委員会では、過去に刊行した文化財関係出版物の販売を取扱っています。購入を希望の場合は、直接、来所ください。郵送の場合は、送料などが必要です。詳しくは文化財調査研究センターまで。

#### 【普及図書】

『郷土のおはなしとうた第3集』（1976年、A5判94頁）	600円
『加古川市の文化財』（1988年改訂、A5判123頁）	1,000円
『加古川市文化財図録』（1995年、A4判107頁）	3,800円

#### 【文化財調査報告書】

『岸遺跡発掘調査報告』（1961年、B5判23頁）	200円
『山之上遺跡Ⅰ』（1977年、B5判8頁）	200円
『東中遺跡発掘調査報告書』（1981年、B5判106頁）	1,200円
『加古川市埋蔵文化財調査集報Ⅰ』（1983年、B5判28頁）	500円
『加古川市の民俗』（1985年、B5判291頁）	1,200円
『加古川市遺跡分布地図』（1994年改訂、A4判291頁）	1,800円
『奥新田西古墳発掘調査報告書』（2000年、A5判41頁）	500円

## 保護と活用

教育委員会では、市内の文化財保護のための事務を行うとともに、文化財保護意識啓発のための事業を行っています。文化財の公開、説明板の設置、講座の開催、講師の派遣、指定文化財の整備や保存管理事業に対する補助などです。

また、加古川市文化財保護協会や加古川文化遺産活性化実行委員会をはじめ、地域の文化財関係団体とともに、文化財の保護と活用に取り組んでいます。

令和2年2月頃から、新型コロナウイルス感染症の拡散防止対策のため、多くの事業が中止、縮小または延期となりました。

今後、感染症に注意しながら、少しずつ文化財の公開や歴史文化を学習する機会を増やしていきます。

### 鶴林寺防災施設整備事業

2019年4月15日にフランスのノートルダム大聖堂で火災が発生し尖塔などが燃え落ちました。同じ年の10月31日には世界遺産に登録されている沖縄県の首里城で延べ4800㎡の再建した建物が消失する大火災があり、多くの工芸品も消失しました。

これらの火災を契機に、わが国でも緊急に文化財建造物の防火対策の確認が進められました。市内では本堂と太子堂の2件の国宝のある鶴林寺で、火災対策の事業が計画され、国・県・市・所有者が協力して令和3年1月に完了し、1月24日に新しい設備で文化財消防訓練が行われました。

火災対策事業の内容は、老朽化していた消防用ポンプの取替、建物内の火災感知装置の充実、屋内からの火災に備えた初期消火のための消



鶴林寺文化財防火デー消防訓練

火栓の増設などです。

鶴林寺では、昭和51（1976）年に三重塔火災の経験もあり、中央消防署や地元消防団とともに、文化財を守ることも考えた消防訓練を毎年行っています。

### 文化財の公開

少年自然の家（東神吉町天下原）の敷地内にある県指定文化財本岡家住宅では、建物内部に農耕具を中心とした民具、屋外には、池尻集落で洪水災害時の救助に使用されていた水防飛来船という救助船や、野尻集落への道標を展示しています。毎年、こどもの日（5月5日）、ひょうごへりテージマンス期間中のうち11月下旬に、少年自然の家無料散策日に建物内部を特別公開しています。お問合せは文化財調査研究センターまで。また、少年自然の家無料散策日については少年自然の家（電話432-5177）まで。

また、加古川総合文化センター博物館では、西条古墳群の行者塚古墳からの出土資料をはじめ、市内の遺跡から出土した考古資料や市民から寄附された民具などの貴重な資料を展示しています。令和2年の夏に加古川総合文化センター博物館で開催予定であった、近年の埋蔵文化財発掘調査の成果を紹介する企画展は、新型コロナウイルス感染症の影響で、1年延期して令和3年の夏から開催することになりました。

そのほか、国指定史跡の西条古墳群、県指定史跡の古代寺院跡である西条廃寺（山手二丁目ほか）、そして、近代の農業用水の水路橋で移設保存された市指定文化財の平木橋（野口町水足）、その他、里古墳（平荘町里）、西山大塚古墳（平荘町西山）、奥新田西古墳（平荘町中山）、石のタライ（加古川町溝之口）は、いつでも見学することができます。

教育委員会が保管している資料は、各地から調査、展示会への貸出し、出版物への掲載などの依頼があります。令和2年1月から12月までの1年間で、特別展



奥新田西古墳

準備や研究発表を目的とした6件160点の調査を受入れ、大阪府、和歌山県や兵庫県内での特別展示などに5件45点（うち継続は1件6点）の貸出し、海外を含む14件64点の出版物などへの掲載を承諾しました。

### 地域文化財総合活用推進事業

この事業は国の事業で、わが国の「たから」である地域の多様で豊かな文化遺産を活用した、伝統芸能・伝統行事の公開・後継者養成、古典に親しむ活動など、各地域の実情に応じた特色ある総合的な取組に対して補助金を交付することで、文化振興とともに地域活性化を推進することを目的としています。

令和2年度は「ボランティア人材育成」として1団体、「祭礼道具修理」として5団体、「伝統文化親子教室」として能楽、獅子舞、太鼓演奏、いけばな、茶道、俳句、百人一首、伝統文化伝承などの19団体の事業が実施決定されています。

事業実施にあたっては、詳しい内容を文化庁のホームページで確認し、加古川文化遺産活性化実行委員会または文化財調査研究センターに相談ください。

### 加古川市文化財保護協会の会員募集

加古川市文化財保護協会は、市内の文化財ならびに自然風土を保護し、これらに関する研究とその知識の普及をはかり、市民文化の向上に資することを目的として、昭和51（1976）年から活動している市民団体です。お問合せは文化財調査研究センターまで。



- ① 泊神社
- ② 美乃利遺跡
- ③ 神納塚古墳・広沢山遺跡
- ④ 鶴林寺
- ⑤ 本岡家住宅
- ⑥ 奥新田西古墳
- ⑦ 文化財調査研究センター・加古川総合文化センター博物館

文化財ニュース64号関係文化財地図